

2002 Xmas Presentation!
「総合型プレゼンテーション
生成支援ツール」

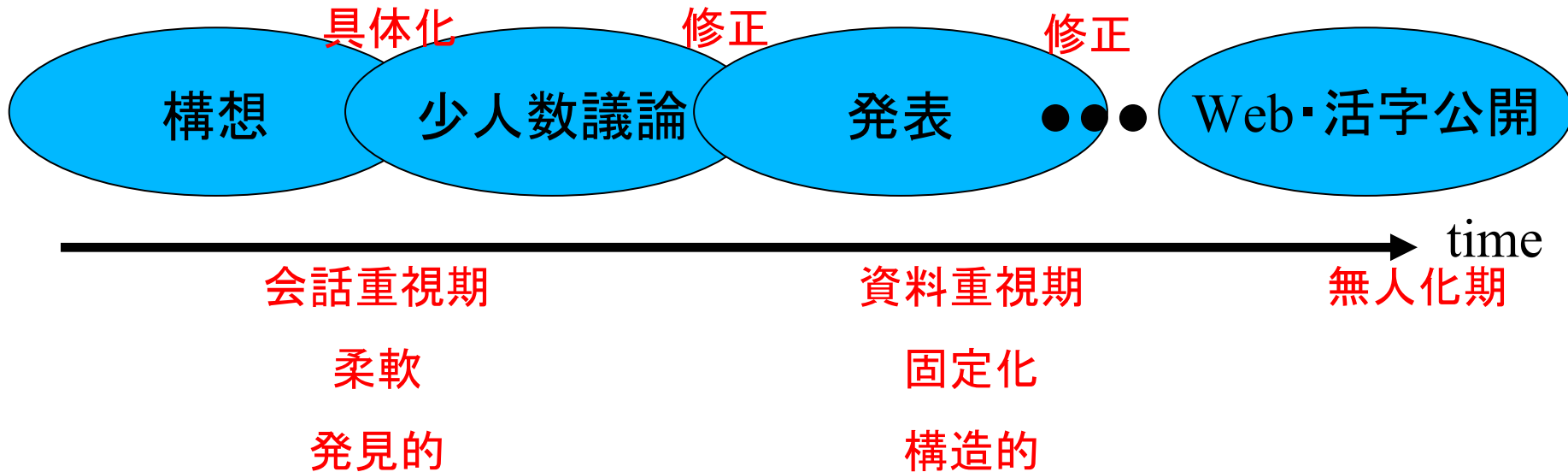
栗原 一貴

目次

- 前回までのまとめ
- デモ
- 五十嵐先生に相談
 - 率直な感想
 - 関連研究
- 今後の方針

◆総合型プレゼンテーション制作ツールとは？

プレゼンテーションのライフスパン



- プレゼンテーションの一生の中には、さまざまな段階がある
- それぞれの段階で資料作成の作業は少しずつことなる
- 既存のツールは、最終的な発表資料をいきなり作ることに特化している
 - 結果、特に初期での作業にオーバーヘッドを生む。
- 「ゆりかごから墓場まで」のプレゼンテーション支援ツールが求められる

◆総合型プレゼンテーション制作ツールとは？

各段階における作業

- － 構想
 - ・ アイディアを自由に図表にスケッチ
- － 少人数議論
 - ・ 図表を描きながらインタラクティブに議論
 - ・ 議論で生成した資料(図表、せりふ)を後でまとめる
- － 発表
 - ・ 事前に準備した資料を提示してゆく
 - ・ 自分の話しぶりや聴衆の反応を後でフィードバックし資料を洗練して行く
- － Web・活字公開
 - ・ スライドに対する説明はほぼ確定しているので、図表＋音声朗読などをおこなわせる



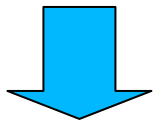
これらを統合して行えるパッケージをめざす

システムの概要図

プレゼンター



- 「紙と鉛筆」
- 「ホワイトボードとペン」



- タブレットPC+マイク
- プロジェクタ

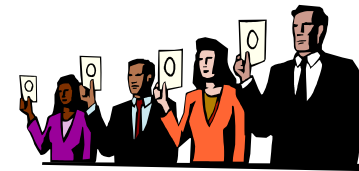
解説



質問



聴衆



- 無人(資料作成)
- 1 to 1
- 1 to many

録音、図の記録



PC

PC自身も一人の聴衆として解説を聞き、曖昧性などをチェックする。

資料作成の革新

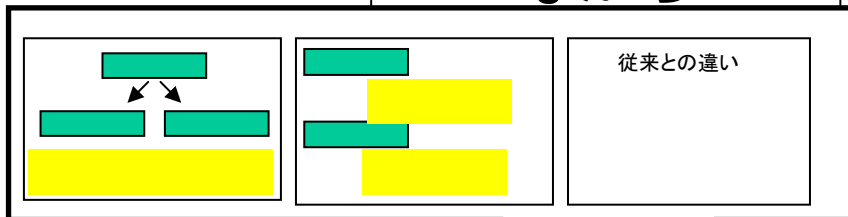
試料 作成
資料 作製
死霊 良作
の
確信 革新
核心 かくしん

話した
作る

作って 造って
創って つくって
離す 話す
話す はなす

話 話し 離し
放し 葉梨
ながら

作って話す



従来との違い

従来

本システム

完成度

完成度

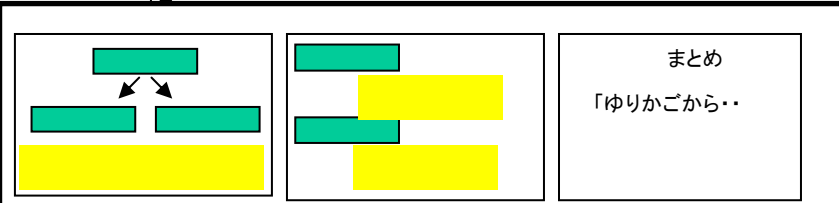
労力

労力

初披露

→時間

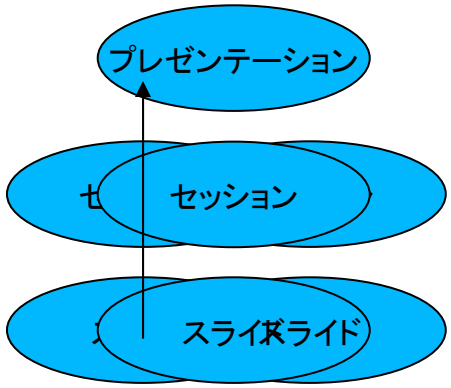
時間



まとめ

- 「ゆりかごから墓場まで」の総合プレゼン支援ツール
- インタラクティブ性を重視し、構造化された表現を得るために必要な労力, オーバーヘッドを小さくする
- 幅広い「表現」のニーズに対応

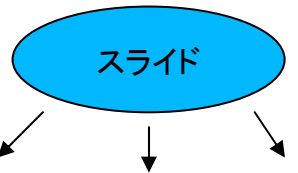
【◆仮想デモ:編集フェーズ】



プレゼンテーションビュー

- 過去のセッションを音声、作図情報とともに閲覧。再生可能

12月5日 23分10秒 27点	12月10日 21分40秒 54点	12月24日 18分04秒 86点
.....



作図	音声	原稿
<ul style="list-style-type: none"> •作図順 	<ul style="list-style-type: none"> •生音 •音声認識されたテキスト •自然言語処理したもの 	<ul style="list-style-type: none"> •手打ち •なくてもよい

セッションビュー

- ひとつのセッションの概要
- 音声ごと並び替え可能
- 生録音と原稿朗読の切り替え

12/24 0:00	資料作成の革新 作って話す から 話しながら作る へ	
1:45	従来との違い 従来はプレゼン初期におおきな負担が..	
3:30	まとめ 「ゆりかごから墓場まで」

スライドビュー

- ひとつのスライドを編集
- 音声認識テキストをもとに最終原稿生成作業を行う

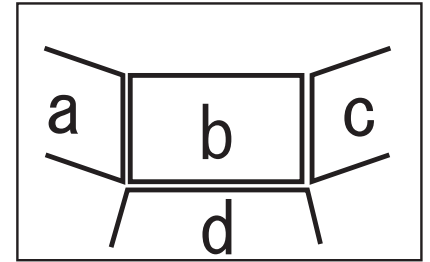
12/24 0:00		
1:45		
3:30		
		<ul style="list-style-type: none"> •音声認識テキスト 説明 質問 •自然言語処理による分析 •最終手打ち原稿

五十嵐先生に相談(先生はタブ レットPCを当然のように使う)

率直な感想

- 作ってみる価値はある。私もいつか学生の卒論のテーマにしようと思っていた。複雑な気分です。
- ポイントはやはり音声認識の性能。
- 書き言葉と話し言葉の違いは埋められるのか。結局編集フェーズの作業が重くなるのでは？
- UI研究の基本として、応用対象である講義などの実際のコミュニケーションを深く観察せよ。
- UI:まず作ってデモして驚かせてなんぼのものである。
- 研究室の機材を使いたければいつでもどうぞ。テストユーザーもなるよ。

五十嵐先生に相談



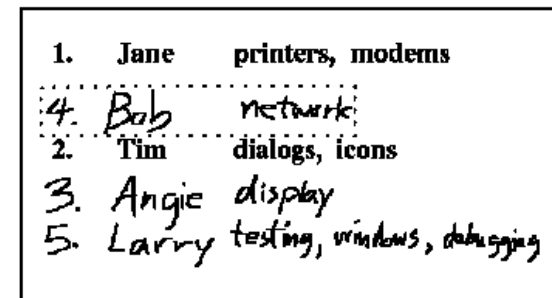
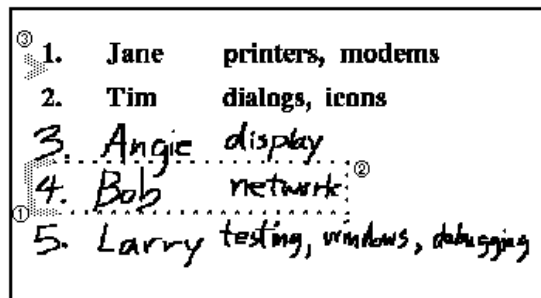
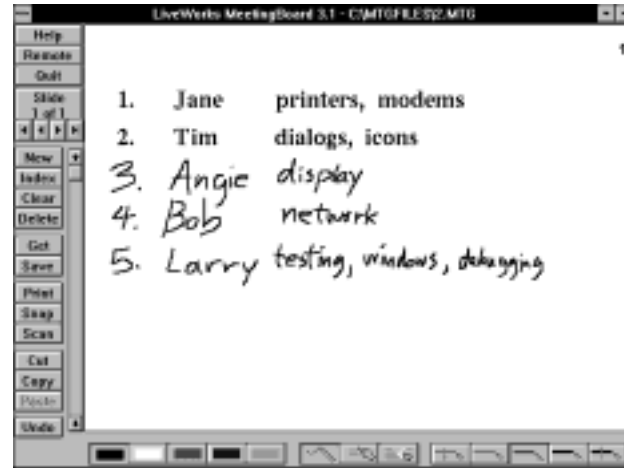
関連研究について

- ホワイトボード、ミーティング支援の研究はたくさんある。
 - Xerox Liveboard / Tivoli
 - 五十嵐先生のFlatland
 - James Landay のSILK
- プレゼン支援の研究はあまりない。音声認識も最近まで性能が悪く使い物にならなかったもので、関連研究が無いに等しく狙いどころではある。
 - 擬似3次元で周囲のスライドが見えるもの
 - Microsoft PowerPointの次世代プロジェクト裏情報
 - スライド単位ではなく、連続的に進行するプレゼンテーション(ほぼプログラミングが必要)
 - ハイパーテキスト的な構造をもつスライド

狙える！

Xerox Liveboard / Tivoli

- Informalな会議のための電子white board
- 既存テキストと手書きテキストを共存



五十嵐先生のFlatland



- 先生曰く、「whiteboardの研究はたくさんあるので、個人用のメモとして」
- 見習うべき点がたくさんある

James Landey の SILK

- 作品、研究手法ともに大変有名
- 先生曰く、「staticなデザインは思考を停止させる」
- 手書き風スケッチがそのままwidgetになる。
(ボタン、スクロールバーなど)



今後の方針

- 音声認識エンジンの性能評価
 - どなたかソフトを使わせてください。
- タブレットPCがほしい
- 細かい仕様を決める？
- プロトタイプを作ってみる？